

FP Topics

= 公的年金の基礎知識 =

2021年6月号

大阪は緊急事態宣言が明けたようですが、まだまだ油断は禁物です。いち早く経済活動の正常化が待たれるところですが、道のりは厳しいようです。今月号から、公的年金について特集してみたいと思います。複雑怪奇な年金制度を、ごく基本的なところから始めてみたいと考えています。2022年度から多くの改正があるようです。一般的な生活者に影響のあるルール改正等を、順次ご紹介していきたいと思っています。

= 私は何号被保険者なの？ =

被保険者	職業	保険料	手続き先
第1号	・自営業者 ・フリーター ・学生など	原則的に納付書で納める	住所地を所轄する国民年金担当窓口
第2号	・会社員 ・公務員等	給与等からの天引き	勤務先
第3号	・第2被保険者に扶養されている配偶者	納付義務なし	扶養している第2被保険者の勤務先

※上記、第1号被保険者の職業には、『第1号被保険者に扶養されている専業主婦（夫）』や『従業員5人未満の個人会社（法人ではない）で厚生年金保険に加入していない会社で働く人』等も含まれます。

※上記、第3号被保険者は保険料の納付義務がありません。よって得られる保障も手厚くありません。該当する配偶者は、圧倒的に女性（妻）が多いと考えられますが、2016年10月から一定の条件を満たした場合については、年収が130万円未満でも厚生年金と健康保険に加入することができるようになりました。自分自身で保険料を負担する義務が生じますが、その分老齢年金が増額され、障害年金の保障も厚くなり、その遺族にも保障がつきます。

= 国民年金について =

国の社会保険制度である、公的年金は大きく分けて『国民年金』と『厚生年金保険』の2種類があります。前者の『国民年金』は日本国内に居住する20歳以上60歳未満のすべての人に加入が義務付けられています。国民年金＝老齢基礎年金といわれていますが、第2被保険者である会社員や公務員さん、及び扶養されている配偶者の第3号被保険者は、厚生年金保険料を納付することで、老齢基礎年金部分の保険料を別途納付する必要はありません。

2021年度の国民年金保険料は、月々16,610円です。保険料の納付方法には「現金」「口座振替」「クレジットカード」払いなどがあります。また、保険料をまとめて前納することにより、保険料の割引制度を利用することもできます。

現金で毎月納付（16,610円×12） 199,320円

現金orクレジットカードで一年分前納 195,780円

口座振替で一年分前納 195,140円

2年分を前納 ※※

※※ 2年分を前納する場合、約16,000円ほど割引があるようです。現金・クレジットカード・口座振替すべての納付方法を利用することができるようですが、詳細は所轄の年金事務所等へお問い合わせください。



= 保険料の納付が困難になったとき =

昨今、コロナ禍の影響もあり、収入が減少してしまったり、勤務先が倒産してしまったり、失業してしまったりなど、厳しい状況もあるようです。

そのような場合、国民年金保険には、保険料納付の免状・猶予等の特例制度があります。

	基礎年金を受給するための加入期間	基礎年金額への反映	障害・遺族基礎年金を受給するための加入期間
未納	加入期間にならない	反映されない	加入期間にならない
全額免除	加入期間になる	年金額の1/2減額あり	加入期間になる
一部免除	加入期間になる	年金額の5/8～7/8減額あり	加入期間になる
納付猶予	加入期間になる	反映されない	加入期間になる
学生納付特例	加入期間になる	反映されない	加入期間になる
産前産後期間の保険料免除	加入期間になる	全額反映される	加入期間になる

年金を受給するためには、10年以上の加入期間が必要となっています。一時的な収入の減少があった場合など、上記の制度を上手に利用することをお勧めします。

【免除制度】

前年の世帯の所得が一定額以下の場合、申請書を提出し、承認されれば保険料の全部または一部の免除を受けることができる制度です。

【納付猶予制度】

本人と配偶者の所得が落ち込んだ場合（世帯の所得ではありません）、承認を得ることができれば、保険料の納付が猶予される制度です。対象となる年齢も30歳未満から50歳未満に引き上げられています。

【学生納付特例】

大学や専門学校等（夜間・通信制を含む）の学生で一定以下の所得であれば、保険料を納める必要はありません。

※詳細は年金事務所等へお問い合わせください。

経済的な状況が回復し、保険料を納めることができるようになれば、保険料を追納することができます。10年以内であれば、未納部分を納付し老齢基礎年金の受給額を満額に近づけることも可能です。

一定の期間を経過すると、保険料に利息がつくこともあるようですので、早めの納付がお勧めです。

～今月の山便り～

3月号より大峯奥駈道を連載しております。今月号では、ほぼ遭難していた初チャレンジ時のお話を予定していましたが、大日如来坐像の写真が出てきましたので、神秘的な深仙宿のお話を、もう少ししてみたいと思います。

写真は“大日岳”とその頂上に鎮座する“大日如来坐像”です。大日岳は“太古の辻”と呼ばれる鞍部のすぐ南側に位置しています。太古の辻とは、大峯奥駈道を北側（金剛界）と南側（胎蔵界）とに二分する神秘的な場所です。太古の辻を撮った写真が何枚かありましたが、いつも白い靄のようなものが映り込んでいました。その写真はどこを探しても見つかりません・・・

大日岳は、大峯山脈の霊的シンボルともいわれる、神秘的な領域です。約30メートルの絶壁は、鎖がかかっているものの、命がけの行場となっています。

その頂上に鎮座する大日如来坐像は、頂上に行かなければ拝めません。（巻き道もあります）

この大日岳をおりて、稜線上の“聖天の森”の先には、役行者が深い瞑想を行ったとされる、“深仙の宿”があります。彼の祈願により数多の神々が出現したとの伝承があるため、神の庭とされています。深禅（じんぜん）、もしくは神山（じんぜん）とも呼ばれているそうです。

この深仙の宿には、“灌頂堂”があり『伝法灌頂』の儀式が行われる、特別な聖地とされています。灌頂堂から少し先の岩場からは、“香精水”と言われる聖なる水が岩間から湧き出ていますが、これは『万病治癒の霊水』とされています。

以前、夏場にこの水を頼りにしていたところ、何と！その香精水が枯れていて、大変困った記憶があります。夏場でしたので、溜まっている水にはポウフラが湧いていましたが、ポウフラをよけてよけて、沸騰させてからいただきました。山を歩いていると身体だけではなく、お腹も強くなるようです・・・

